

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 20日

事業所名 のんきつず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	3	活動を分ける 拠点を分ける	利用者がいつも以上に多く、密になることがある。 利用定員数の制限、スペースを確保するために不用品撤去。
	2	職員の配置数は適切である	5	3		突然のキャンセルによって、職員が多いことがある。その逆で、休憩時間など人手が足りないこともある。職員配置の適正化を図る。時間帯により、手薄な時もあるため、上層部に相談。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	4		段差が多く、危険を感じる。バリアフリー化や危険箇所の把握を職員全体で行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	5		気づいた点は積極的に共有し、改善に努める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	3	アンケート実施。結果は公表する。 活動報告は、ニュースレターとして配布している。	保護者の意向を把握できる仕組み作りを検討。ご意見箱など。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2	毎年公開している。	公開した旨を保護者や関係各所に告知する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	会社全体で、資質向上のために研修を実施。外部の研修も周知している。	今後も研修を実施して、会社全体でスキルアップしていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	2		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	3		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2	日々の支援の中で疑問や困りごとは、ミーティングにて検討している。	チームで立案できていないと感じる時もある。個別支援会議を設け、担当者が参加し、意見を出し合う。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	2	日々新たなことに挑戦できるように、職員間で提案し合っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2	長期休暇は、午前・午後とメインとなる活動を設けて楽しめるよう工夫。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	4	集団でのおでかけ、遊びの機会を設けている。	個別の遊びを好む方が多く、集団で同じことをする時間が少ない。また、集団で出かけたり遊んだりする中で、どのように関わり合いを持つかを考えていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	3	その日の流れを打ち合わせできている。時間が取れない時はLINEで確認。	時差で出勤する職員にも動きがわかるように、ホワイトボードに役割分担を詳細に記入する等、周知を徹底する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	5		気づいた点の共有はLINE Worksにて出来ているが、振り返りができていない。支援終了後委は、誰もいない現状がある。時短社員、パート社員、正社員は支援後に居宅訪問へ行く事が多い。翌日や、別日にミーティング時間を設ける。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	支援実施記録を記入し、保護者へ渡している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5	2			

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	1		学校迎えに行くが帰宅後だったことがある。また、他事業所とのパッシング。保護者からのご予約に加え、学校にも重ねて確認を行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	1	主治医意見書を依頼している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	0	放課後→生活介護に移行する際、学校や相談員を含めて情報共有している。こちらでの様子を、詳細に伝達している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	3	公園で出会う園児や保育者には積極的に接交流を求めている。スタッフの子どもと関わりあり。	同年代の子供と関わる機会を貴重なものと捉え、近所の公園に出かける機会を増やしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0		送迎専属のスタッフがあり、日々の様子を伝える機会は以前より減少。連絡帳を詳細に記入したり、写真を送る・電話で伝えるなども行っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	5		
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	2		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6		参観等実施し、保護者間交流の機会としたい。コロナ終息後検討。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	ニュースレターとして、活動報告のお便りを配布。	今後も続けていく。発行頻度を増やしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	7	1		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4	「バリアカツ」(=バリアフリー活動)として、調理や制作を行っていた。	コロナ禍で実施が難しい現状。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0	コロナウイルス対策に於いても、マニュアルを保護者に対して開示。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	避難訓練2回/年実施。緊急時の持ち出し袋を個々で用意。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	虐待防止研修を会社全体で実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1	事例の数を集めるために、記入しやすい簡単な様式を採用。